畠山重忠　１１６４年～１２０５年　享年４２歳

畠山家は桓武平氏の流れをくむ秩父一族の惣領家
畠山重忠は、武蔵武士の棟梁と仰がれた畠山重能の嫡男として
武蔵国男衾郡畠山（現埼玉県深谷市川本町）にて出生
源頼朝の決起直後は平家方として戦うも、誘いに応じて参陣
その後、平家・源義仲・奥州藤原氏等との戦いにおいて大活躍
鎌倉幕府の樹立・確立に大きく貢献した武将
知仁勇に優れた武将、力持ち、誠実、清廉潔白、音楽も嗜む
鎌倉武士の鑑
源頼朝が最も信頼した重臣、将軍家に忠誠を誓う有力御家人
鎌倉幕府の実権を狙う執権・北条時政に悪まれ、謀反の疑いを
かけられて、菅谷の館（現・埼玉県比企郡嵐山町）から鎌倉に
おびき寄せられ、鶴ヶ峰付近で北条の大軍の待伏せにあい討ち死

吾妻鏡

１２０５年６月１９日

いとこ稲毛重成より「鎌倉で軍兵の蜂起がある」との報あり

重忠は、菅谷の館から二男重秀ら１３４騎を率いて「いざ鎌倉！」

同　６月２２日　快晴

早朝、由井ガ浜で嫡男（四男）重保と従者３名が誅殺された

正午、重忠一行は二俣河に着き、鶴峯の麓に陣を敷く

重忠は、その朝、嫡男重保が謀反人として殺されたこと、

川の対岸から北条の大軍が襲来してくることを知る

家臣らは一旦本拠に戻り態勢を整え戦うことを進言したが

重忠は「ここで引返すと謀反を企んでいたと疑われてしまう、

家を忘れ親を忘れて戦うのが武将の本意」と、激しい戦いへ

午後４時半頃、愛甲三郎季隆の放った矢が重忠に中り討ち死

（重忠４２歳）、重秀（２３歳）らは自殺し、全滅